

## 知的障害持ち画作 田中瑞木さん

知的障害を持ち、画作を続けている調布市在住の田中瑞木さん(31)の作品を展示する美術館を建設しようと、田中さんの母親らが作る市内の非営利組織(NPO)「海から海へ」が来月三日、同市調布ヶ丘の電気通信大講堂で、コンサートを開く。田中さんはキャンバスをいっぱい使ったダイナミックな画風が注目され、これまでに数々の賞を受けてきた。コンサートには歌手の庄野真代さんを招き、会場には田中さんの絵を展示する予定で、収益を建設資金とするほか、会場で募金をする。

脚に障害を持って生まれた田中さんが絵に興味を持ったのは、小学校に入学したころ。

## 画風のびやか 夢は美術館建設



田中さんの作品  
「秋のサファリパーク」

十二歳からは絵画教室に通い始め、それ以降、画作を続けている。これまでに描いた作品は、油絵を中心に六十二点。家族や友達、動物や草花など身近なものを題材としてきた。サファリパークで見たキリンを描いた「秋のサファリパーク」、キャンバスいっぱいには何匹もの猫を描いた「むこの



キャンバスいっぱいを使った、色鮮やかな絵を描き続ける田中さん

## ■ 来月、募金コンサート

「元気をもらった。普段はここで見る事ができるの」などという声が多く寄せられたのがきっかけで、母親の阿部優子さん(54)らが美術館建設を思い立った。「作品も六十点を超え、常時公開できるスペースが欲しい」と、「みずき美術館」(仮称)の建設を計画。美術館建設は知的障害者の自立支援などを行うNPOの「海から海へ」を、昨年十月に設立した。

今年四月からは、同市のマンション内にある田中さんのアトリエを、火、水、土曜日の午後一〜五時開放し、約十作品ずつ二か月交代で展示している。来場者には募金に協力してもらうなどしているが、目標額の5000万円にははるかに及ばない。

そこで、知人のつてをたどって庄野真代さんに協力してもらい、資金集めのためのコンサートを開くことになった。田中さんは自分の好きなものを絵に描いてきました。なかさんの人に私の絵を見てもらいたい」と話している。

当日は午後四時半開演、全席自由で入場料は3000円。障害のある人は無料。未就学児には保育サービスもある。問い合わせは、事務局(会)

0424・82・2775(入)

# 武蔵野版

武蔵野支局  
武蔵野市西久保  
104010  
〒180-0013  
☎(0422)51-3131  
FAX  
(0422)51-3133